

例会報告



第2799回例会
令和7年12月5日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 門前 庄次郎
- 幹事 杉山 和宏
- 会報委員長 堀 幸一郎
- 大垣共立銀行高山支店 4F

お祝い・年次総会・会計中間報告
ニコニコ委員会担当例会

<会長の言葉>

今日は門前会長がインフルエンザに罹られてお休みということですので代行を務めさせていただきます。このロータリーの歯車のマークについて、どういう由来があるのかと思って、ちょっと調べてみました。まず、1905年にロータリークラブが創設しまして、それから5年くらいはですね、どうもマークを統一せずに、それぞれのクラブで独自のデザインを使っていたらしいんですけど、これは統一しなきゃいけないということで、1910年に入って、ロータリークラブが急速に拡大したところで、象徴的なロゴを作ろうということになって、歯車という形に決めたいです。この歯車というのは、たくさんの歯がかみ合って力を伝えるということ、多くの部品が協調して働く動力となって何かを動かす役割となるという意味で、ロータリーの理念である職業人同士が協力し、奉仕活動を進めていく仕組みというものを象徴するのに、ちょうど良いという形で、歯車が選ばれたようです。1919年に、このエンブレも標準化しようという動きがありまして、この歯が24枚あるらしいんですがこれは何を表すかという、昼夜24時間、常に奉仕の心を持つということを表すらしいです。真ん中から伸びている6本のスポーク、これは、当初6つの重要分野について、この六という数字が決められたようです。6つの重要分野というのは、1つ目に平和の構築と紛争予防、2つ目に疾病の予防と治療、3つ目に水と衛生、4つ目に母子の健康、5つ目に基本的教育と、識字率の向上、6つ目に地域社会の経済発展というので、当時重要分野として6つあったそうです。それで、あの形が決まったんですけども、1923年に、ある技術者のロータリアンから、このエンブレの歯車には、中央にキーウェイがないので、機械として機能しないという指摘があったそうです。キーウェイというのはですね、この歯車の真ん中に、上に部分に切りかきがあるんですけど、機械の歯車の真ん中に、こうシャフトが通るんですが、シャフトが歯車と空回りしないように、カチッと軸を固定して回せるようにある切りかきがキーウェイというらしいです。私、昨晚本当かなと思って、このバッジを、虫眼鏡で見てみたんですが、このバッジにもちゃんとキーウェイが刻まれていてびっくりしました。このロータリーの歯車には「行動し続ける。」「働き続けるクラブの姿勢。」「個人ではなく、仲間と共に社会をよくするという精神」等々がエンブレに、象徴されているということらしいです。私も初めて勉強しまして、あの歯車にはこういう意味があったのかということで、門前さんにご縁をいただいたなというふうに思っております。今日は、この後の内容が盛りだくさんですので、会長の時間は以上とさせていただきます。



<幹事報告>

◎RI日本事務局より

- ・12月のロータリーレートについて
1ドル 156円 (11月 154円)

◎地区事務所より

- 地区補助金募集要項
- 地区補助金支給規定
- 地区補助金申請書
- 地区補助金申請書の書き方例
- 地区補助金報告書
- 地区補助金報告書の書き方例
- 地区補助金奨学生募集要項
- 地区補助金奨学生申込書
- 地区補助金奨学生推薦状
- MOU (クラブの覚書)

提出締切・・・12月17日

(申請を予定しなくても提出義務有り)

◎ガバナー事務所より

- ・RI2630 地区ガバナー 多賀 潤一郎様 (大垣RC)
11月20日ご逝去 享年102歳
- ・財団宝NEWS 2025年12月号
- ・2026年 台北国際大会通信
- ・「疾病予防と治療月間」に関するリソース
- ・年末年始休暇のお知らせ

<例会変更>

高山RC	日	時	12月11日(木) ⇒ 7日(日)
理	由		第39回インターアクト 飛騨・中濃・東濃グループ協議会のため
場	所		ひだホテルプラザ
日	時		12月18日(木) 18:30~
理	由		忘年例会のため
場	所		萬代
日	時		12月25日(木)
理	由		規定休会
可児R...	日	時	2026年1月8日(木) 点鐘12時30
理	由		新年例会&例会場変更の為
場	所		カフェレストラン「イマコヤ」
日	時		2026年1月22日(木) 点鐘12時30
分	理	由	例会場変更の為
場	所		カフェレストラン「イマコヤ」

<休会>

可児R...	日	時	2026年1月1日(木)
理	由		休会(元旦の為)
日	時		2026年1月15日(木)
理	由		休会(定款により)
日	時		2026年1月29日(木)
理	由		休会(定款により)

<受贈誌>

中部宣導犬協会 (機関誌NewHarness)

例会報告

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
28名	—	28名	40名	73.68%

直前ガバナー補佐 岡田 賛三さんに 感謝状が贈呈されました。

11月8・9日に開催されました地区大会時に表彰式が行われる予定でしたが、当日 ご欠席（休会等もあり）12月5日に贈呈となりました。



<本日のプログラム>

お祝い

◎会員誕生日

田中 晶洋さん 11.6
(当日ご欠席)



榎坂 純一 見山 政克
12.17 12.22

(当日欠席)

向井 公規 12.21 新井 典仁 12.1

◎配偶者誕生日 (当日ご自宅に花束をお届け)

狭土 貞吉 輝 子さん 12.12
長瀬 達三 佳奈子さん 12.3
田邊 淳 智 子さん 12.4
水梨 弘基 美保子さん 12.14

◎結婚記念日



見山 政克 H4.11.23
(当日ご欠席)



鴻野 幸泰

大村 貴之

水梨 弘基

S61.12.1

H12.12.25

H24.12.19

◎出席表彰

内田 幸洋 24年
門前 庄次郎 18年
(当日欠席)



◎出席表彰

田中 晶洋 2年
(当日欠席)



◎3ヶ月表彰

・内田 幸洋 ・門前 庄次郎 ・塚本 直人

<ロータリーの友 紹介>

会報・雑誌・広報委員長 堀 幸一郎

横組み (P.5~11) 3人寄らば、何とやら？話に花を咲かせましょう

本特集では、2018年国際協議会で研修リーダーを務めた三氏が再集結し、ロータリーの魅力と本質について語り合っています。三氏は(高野孫左エ門氏、木下光一氏、本田博巳氏) いずれも「義理」や「断れなかった」という理由で入会したと語りますが、役割を引き受ける中でロータリーの価値を実感し、学びと成長の機会を得たと振り返っています。ロータリアンとは特別な人物の集まりではなく、「地域に貢献したい」という思いを持つ普通の人々であることが強調されています。また、多様な価値観を尊重する姿勢こそがクラブの力であり、人間的成長にもつながると語られています。例会の重要性にも触れられ、例会は奉仕とリーダーシップを学ぶ成長の場であり、クラブ文化を育てる基盤であると一致しています。さらに、地域に根差した継続奉仕がクラブの誇りとなり、新会員の意欲向上にもつながることが紹介されています。三氏の対話を通じ、ロータリーが提供する「役割による成長」「仲間との交流」「地域奉仕の意義」が再確認される内容となっています。

縦組み (P.2~6) 日本生まれ、世界育ちの母子手帳

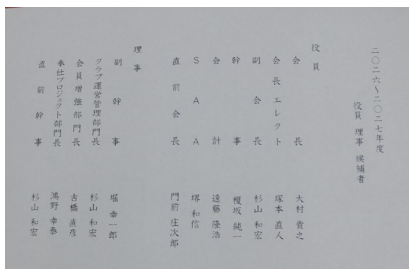
日本 WHO 協会理事長の中村安秀氏は、母子手帳が日本で誕生し世界へ広まった経緯を、自身の豊富な経験とともに紹介しています。同氏は小児科医としてインドネシアに赴任した際、子どもの健康記録がほとんど残っていない現実を目の当たりにし、日本の母子手帳の優れた仕組みを強く実感したと述べています。母子手帳は1948年、



例会報告

戦後の混乱期に生まれ、一冊に妊娠・出産・成長記録をまとめる画期的な仕組みでした。中村氏はこの価値を海外にも届けたいと考え、現地に合わせたインドネシア版母子手帳をゼロから作成しました。後にその手帳が家庭で大切に使われ、子どもの健康を守る力となっている姿を目にし、強い確信を得たと語っています。現在、母子手帳は40以上の国と地域に広がり、多くの家庭で母と子を守る仕組みとして活用されています。中村氏は、戦後日本の知恵が世界の子どもたちの未来に貢献している意義を強調し、地域から生まれた取り組みが世界で役立つことを改めて示しました。

年次総会 会長エレクト 大村 貴之



ニコニコ委員会委員長 内田 幸洋

本日は私の同級生で10年ぶりに高山市の仏師、高田慈眼氏をお迎えしました。現在、飛騨地域を舞台に撮影が進められている映画『仏師』の監修という大役を担われた高田氏に、映画制作の経緯や舞台裏、そして仏師としての思いを、ユーモアあふれる語り口で語っていただきます。



仏師 高田 慈眼さん

【映画『仏師』制作のきっかけと「飛騨」へのこだわり】

本作品の企画は、脚本・監督を務める田中康一氏が東京のイベントで発表したところから始まります。その際、飛騨市の都竹市長から「仏師というタイトルなら、それは飛騨でしょう」と熱意ある声をかけられたことが、飛騨地域での撮影決定につながりました。実際に飛騨を訪れた監督は、その四季の美しさに魅了され、飛騨市長も全面的にこの企画に協力することになりました。物語の舞台設定の多くは高山であり、私の工房も劇中では「奈良の師匠の工房」として撮影に使われるという設定です。工房からは天気の良いと乗鞍岳が見えるのですが、設定との整合性をとるため、晴れた日には乗鞍が映り込まないよう窓の外を映さない工夫をしながら撮影しています。



【対照的な二つの映画と「ボランティア」精神】

現在、同時期に話題となっている大作映画『国宝』と比較すると、この『仏師』は非常に限られた予算の中で制作されています。「銭をかけていない」「もうもんなし（何もなし）みたいなもの」と高田氏は表現されています。当初、謝礼がもらえるかと思いきや、全て奉仕（ボランティア）での協力依頼であり、「なんで私がこんな貧乏くじを引いたのか」とユーモアを交えて本音を明かされました。しかし、監督やスタッフが資金不足の中でも必死に頑張っ

ている姿を見ると、かつて私が奈良や京都で修行した際に多くの方にお世話になったことへの「恩返し」だと思い、制作に協力することを決めました。

【人間ドラマと飛騨の四季を映す1年半の撮影】

映画は、主人公の若き仏師（演：遠藤雄弥さん）が、過去の出来事による大きなショックと葛藤を抱え、仏像が凋れない状態に陥るところから始まります。彼は奈良の師匠（演：ベンガル氏）の勧めで、頭を冷やすために飛騨・上宝町の蔵柱にある築百年以上の古民家で、しばらく過ごすことになります。本作の撮影は、通常の映画が3ヶ月ほどで撮り終えるのに対し、1年半という異例の歳月をかけて行われています。これは、飛騨の美しい四季（春の花、夏の新緑、秋の紅葉、そして厳しい冬の景色）を丁寧に映像に収め、主人公の心の変化と重ねて描くためです。飛騨の素晴らしい自然の景色が映画のバックに映り込むことで、映画の公開とともに飛騨の良さが全国に紹介されることになると期待されています。

【仏師・高田慈眼の多岐にわたる貢献と奮闘】

技術指導と「手タレ」： 師匠役のベンガルさんが仏像を彫るシーンでは、高田氏が「手」の吹き替え（手タレ）を担当されました。また、主人公が劇中で彫る「観音様」も高田氏が実際に制作されています。

私物の提供： 80kgもある鉄製の彫刻台や、工房を「奈良の師匠の工房」として撮影に提供されています。

地元の協力： 主人公が古民家で畑仕事をするシーンでは、実際には蔵柱の近所の方々が畑を作り、野菜を育ててくださるなど、地元の協力が不可欠でした。

厳寒期の撮影協力： 撮影は極寒の時期にも行われ、スタッフが20人以上で静かな工房に押し寄せるなど、大変な苦勞をされたエピソードを披露されました。

【個人的な試練と豪華キャスト】

劇中の観音様を制作している間、高田氏は「涙が出る、見えにくい」と感じており、後に白内障だったことが判明しました。9月末に手術を受けられ、今は視界がクリアになりましたが、手術前に彫った観音様をはっきり見るのが怖いと、ユーモラスに語られています。本作のキャストには、主演の遠藤雄弥さんのほか、渡辺いっけい氏、津田寛治氏、小野真千子氏など、実力派が揃っています。主人公を演じる遠藤さんは、謙虚で一生懸命な方であり、その姿勢は高く評価されています。また、映画タイトルの『仏師』という題字は、「令和」の揮毫で知られる茂住修身氏が担当されており、高田氏は「皆の情熱とボランティア精神で作り上げている作品」であることを強調されました。

映画『仏師』は、飛騨の美しい四季の風景を背景に、一人の人間が葛藤を乗り越え、再生に向かう姿を描いた作品です。公開は来年（2026年）の夏頃が予定されています。高田氏の多大な協力のもと、情熱あふれるスタッフとキャストが作り上げた本作が、飛騨の魅力を全国に発信し、多くの人々の心に響くことを期待し、卓話を締めくくられました。



例会報告

<ニコニコボックス>

●田中 晶洋さん・杉山 和宏さん

本日は、講師として仏師の高田慈眼さんにお越しいただきました。ご来訪を心より歓迎いたします。時節柄、皆様もインフルエンザ・コロナには十分お気をつけください。

●伊藤 松寿さん・岡田 賛三さん・挾土 貞吉さん 内田 幸洋さん・田中 武さん

高田 慈眼さんには、本日御多用のところお越しくださりましてありがとうございます。
新作の映画「仏師」の監修たいへん名誉なことで完成が楽しみです。

●下屋 勝比古さん

「世界ハンドボール女子選手権」の応援に、妻と珍道中をしてきました。なかなか出場機会はありませんでしたが、勝利の瞬間弾ける笑顔で喜べたことは、とても幸せでした。まだまだ大会は続きます。ご声援引き続きお願いします。
チョコをちょこっとお裾分け。

●伊藤 松寿さん・岡田 賛三さん・田近 毅さん 古橋 直彦さん・米澤 久二さん・遠藤 隆浩さん 鴻野 幸泰さん・田邊 淳さん・榎坂 純一さん 堀 幸一郎さん・大屋 尚史さん・川瀬 裕之さん 周 光大さん・見山 政克さん

早いもので今年も残すところ1ヶ月を切りました。
明後日7日が暦の上では大雪だそうでして、高山の市街地も雪かきシーズンに突入しました。インフルエンザが大流行しているようですが、体調に気を付けて師走を乗り切りましょう！

